東名運河

地蔵島灯台

花渕灯台

（１０）近代以降の観光産業

明治から大正時代にかけて、国民の娯楽を目的として県営松島公園の整備事業が進められた。これにより四大観の整備や船着場の建設などが行われ、ホテルや土産物屋も発達して観光地としての松島がつくられていく。

また、砂浜や干潟では、海水浴場や潮干狩り場が開設されはじめる。菖蒲田海水浴場は東北地方で最初に開設されたものとして知られ、今も夏の特徴的な景観となっている。外国人による観光開発も行われ、七ヶ浜町高山は戦前にアメリカ人宣教師が外国人専用避暑地として開発したものが今に至っている。

第３－１６表　近代以降の観光産業の構成

観月楼【町有形】・瑞巌寺門前の土産物屋街	松島町	松島字町内	瑞巌寺総門の東側にある三階館の建物で、もとは旅籠であった。明治元年 (1868) 竣工の本館と、大正期に増築された新館からなる。竣工当時から残る伝統的な意匠と、戦後に進駐軍宿舎とされた後の修繕による近代的な意匠が混在する。また、周辺は土産物屋街となり、明治時代末の松島海岸の様子を伝えている。
松島湾の遊覧船・船着場		松島	塩釜港と松島海岸を結ぶ遊覧船や、湾内の周遊船がある。
旧松島公園管理事務所		松島字町内	県営松島公園の管理事務所として建てられた。
松島パークホテル跡		松島字町内	東北地方初の外国人向けリゾートホテル。大正２年 (1913) に開業し、昭和 44 年 (1969) に失火により焼失。現在は公園緑地となっている。
旧小料理正宗		松島字小梨屋	総石造２階建。昭和 29 年 (1954) 建築。
福浦橋		松島	本土から福浦島をつなぐ全長 252m の朱塗りの橋。県内初の有料橋として昭和 42 年 (1967) に完成した。
ブランデンの碑		松島字愛宕裏	イギリスの詩人エドマンド・ブランデン氏が昭和 28 年 (1953)、家族とともに松島を訪れた折の感懐をうたった詩を、詩人白鳥省吾が翻訳し、町が新富山の山頂に建てた碑。
野蒜海水浴場	東松島市	野蒜	宮城電鉄初代社長山本豊次による観光開発として、須磨海岸にならい、昭和６年 (1931) に宮城電鉄野蒜駅を東北須磨駅と改称するなどの整備を行った。
大高森薬師堂【国登録有形】		宮戸字大高森	大高森の中腹に位置する。大正４年 (1915) に建設で、堂内には白木作りの薬師如来像が安置されている。
月浜海水浴場		宮戸字月浜	奥松島にある海水浴場。東日本大震災で被災を受けたが、平成 28 年 (2016) に再開した。
高山外国人避暑地別荘群と高山海岸	七ヶ浜町	花渕浜字戸谷場、表浜二、浜沼	七ヶ浜半島南東端の高台にある外国人専用避暑地。第二高等学校英語教師ハーレルが避暑地として土地を借り、明治 22 年 (1889) に東北学院長シュネーダーが別荘を建設したのに始まる。

菖蒲田海水浴場・表浜	七ヶ浜町	菖蒲田浜字長砂 花渕浜字表浜	菖蒲田海水浴場は明治 21 年 (1888) に開場した東北地方で初の海水浴場。当時は近くの眺望崎に保養施設「大東館」があり、多くの著名人が滞在した。表浜は高山外国人避暑地に隣接し、夏には避暑にきた外国人でにぎわう。
桂島海水浴場	塩竈市	浦戸桂島庵寺	桂島随一の風光明媚を誇る。東日本大震災による津波被害を受けたが、平成 27 年 (2015) から再開された。

観月楼

大高森薬師堂

菖蒲田海水浴場

（１１）野蒜・宮戸の採掘場群と凝灰岩建物

松島で産出される凝灰岩は加工が容易で、野蒜石や塩竈石といった産地名が付けられて壁や塀、竈の石材として出荷された。松島には採石場跡が各地に残り、松島では凝灰岩を使った家や倉庫が現在も多数使われている。採石により地形の改変は進んだが、その一方で浦戸諸島寒風沢島の塩竈石を使用した建物は特有の景観も生み出した。

採石場の近辺では、採石時に生じる規格外の石材などを使って入江を干拓した田地を見ることもあり、地域資源を利用した遺産になっている。

第３－１７表　野蒜・宮戸の採掘場群と凝灰岩建物の構成

潜ケ浦石採掘所	東松島市	宮戸字潜ヶ浦	潜ケ浦石の採掘所２か所が確認される。石切りした崖には、当時彫られた女性像もみられる。
野蒜石・松島石採掘所		野蒜字東名	旧野蒜駅の北を中心に８地点、旧東名駅東側に２地点採掘所が確認されている。
野蒜石・潜ヶ浦石の住宅、倉庫、塀		宮戸	地元産出の野蒜石、潜ヶ浦石等を建材にした住宅、倉庫、塀からなる。
採石場跡を利用した住宅		宮戸字里浜	小規模な採石場跡を、住宅用地として利用している。
凝灰岩（塩竈石）製建物の景観	塩竈市	浦戸	凝灰岩切石ブロックの倉庫や一部改造して住宅化した建物からなる景観。浦戸諸島寒風沢島で比較的まとまってみられる。塩竈石は現在の塩竈市藤倉周辺で採石されていた。

（１２）戦争の痕跡

松島周辺には第二次世界大戦に関わるものとして、松島海軍航空隊（東松島市矢本）や、多賀城海軍工廠松島地区（松島町高城）などの戦争遺跡がある。大戦終期には、アメリカ軍の上陸地を東松島市矢本大曲海岸付近と想定し、海軍が基地建設を始めた。また、湾内にある多数のボラは防空壕としても活用された。これらは現在も歴史を伝えている。

第３－１８表　戦争の痕跡の構成

多賀城海軍工廠地下作業室跡の岩窟	松島町	高城字居網沢	多賀城海軍工廠の地下作業室として掘られた大がかりな洞窟がいたるところにある。
野蒜の防空監視哨	東松島市	野蒜	鳴瀬川河口付近に設置されていた。

大高森の松島海軍空港隊無線基地跡	東松島市	宮戸	終戦間際に設営された無線基地。山の中腹に兵舎が建てられたと伝わる。
第１４６震洋隊基地		宮戸字大鮫	鮫ヶ浦は、国内最後となる震洋 146 番部隊の基地が造られた。東北地方太平洋側では、最大の基地になる予定であった。
防空壕として使用されたボラ	東松島市 松島町 塩竈市	各地	海食崖に掘られたボラの一部は、防空壕としても使われた。

（１３）手樽の干拓景観

手樽浦には昭和 30 年代（1955 ～ 1964）の国営干拓事業による埋め立てで広大な田園が形成された。それにより自然の海岸線は失われたが、今は干拓事業で生まれた田園とかつての海岸線の名残りのある地形とが融合し、町の産業を支えてきた特徴的な景観が生み出されている。

第３－１９表　手樽の干拓景観の構成

古浦農村公園	松島町	手樽字七十里	松島湾に面した農村公園。
手樽海浜公園		手樽字銭神	松島湾に面した 485 メートルの海岸線に展開する広大な公園。
手樽干拓農地		手樽	昭和 33 年 (1958) から 10 年間の国営干拓事業によって手樽浦の 120 余ヘクタールが耕地化をされた。現在も田畑が広がる。
佐助堤防		手樽	安部佐助を中心として、塩田を拓くために作られた長さ 210m の堤防。
早川堤防		手樽	仙台藩士早川義泰と名主の卯右衛門により、田を拓くために早川の海に作られた長さ 210m の堤防。
手樽干拓記念碑		手樽字鵜の島	手樽湾内全域が干拓された記念に昭和 55 年 (1980) に造立された碑。
大塚の新田	東松島市	大塚字大東	湾を埋め立てた田地、石積の段が作られている。石積みは周辺砕石場のズリ石等が使用されている。

（１４）災害を伝えるもの

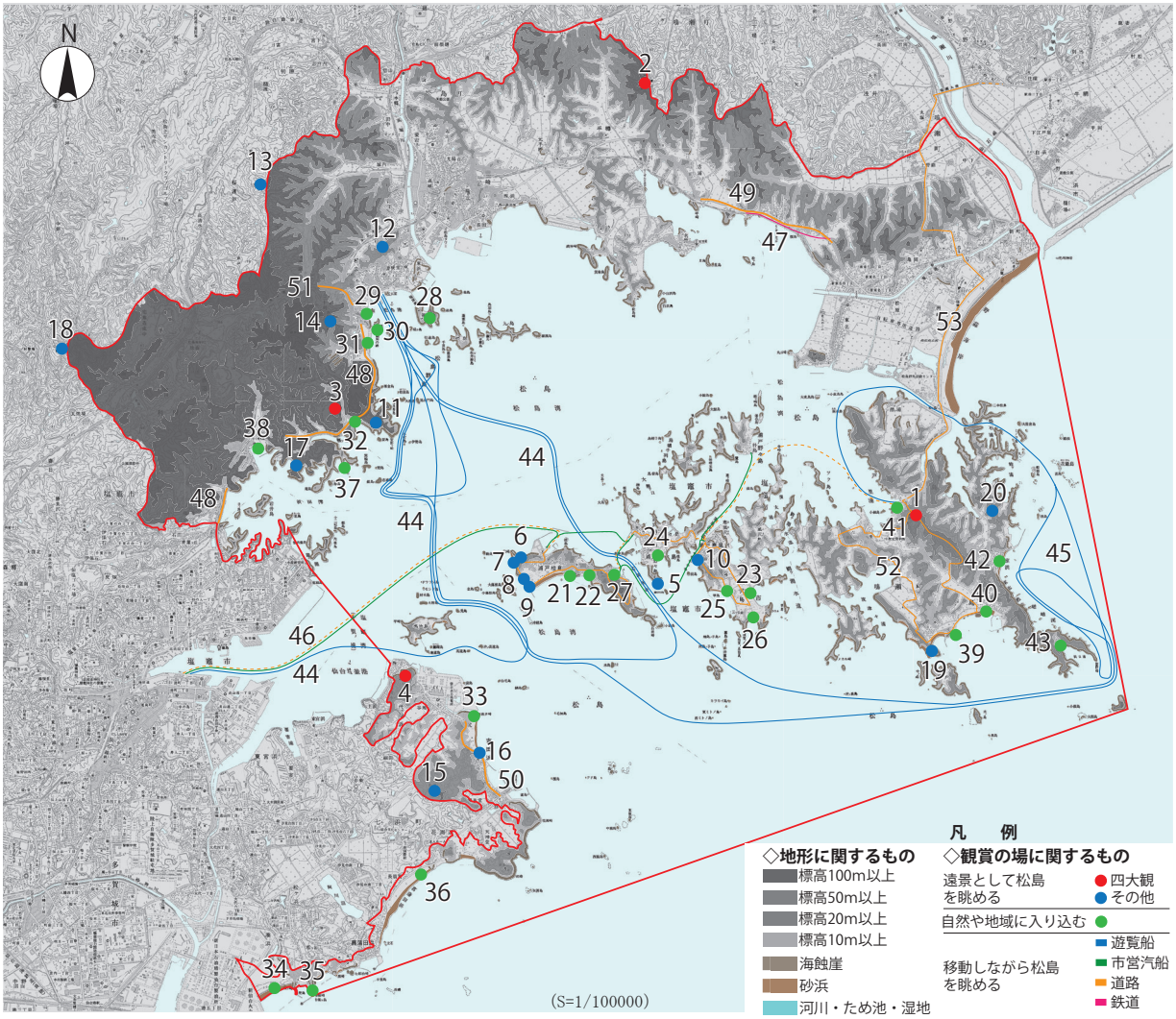
平成 23 年（2011）３月 11 日に起きた東日本大震災は、太平洋沿岸部の一帯に壊滅的な被害をもたらした。松島には津波の被害を示す遺構が残り、今もその記憶を継承している。また、東日本大震災以前の災害を示す資料として、津波地蔵や津波石が各地域に残っている。

第３－２０表　災害を伝えるものの構成

室浜の津波地蔵	東松島市	宮戸字室浜	潜ヶ浦と室浜からの津波により、多くの人々が亡くなったと伝わる地にある地蔵。
里浜の六地蔵		宮戸	現在は中小舟渡にあるが、かつては二ツ橋の近くにあった。津波の犠牲者を供養したものと伝わる。
里浜の津波石		宮戸	二ツ橋にある。風化で文字は読めず、時代も不明。かつて大浜、里浜から来た津波がこの場所に押し寄せたと伝わる。東日本大震災の際に外洋と内湾から押し寄せた津波も、この石碑の手前で止まった。
旧野蒜駅舎		野蒜字北余景	東日本大震災の津波によって被災した建物。現在は震災復興伝承館となっている。
旧野蒜小学校		野蒜字亀岡	東日本大震災の津波によって被災した建物。現在は総合防災宿泊施設 (KIBOCHA) となっている。
みんなの家	東松島市 七ヶ浜町	各地	東日本大震災の被災地で、住民たちの憩いの場等の拠点回復を目的とし、建築家やボランティア団体によって提案・建設された建物群。大浜、月浜、七ヶ浜、新浜みんなの家がある。

第５節　観賞の場

風景を眺め感動体験できる観賞は、“ 松島の風景 ” イメージを共有し、価値観の形成に大きな影響を与えている。松島の観賞では、遠景としての眺めが優れているが、自然や地域社会に入り込む観賞や、遊覧船や鉄道で移動しながらの眺めも松島の奥深さを味わえる。これらを眺める観賞の場は、四大観など歴史的に評価を得てきた場所や、近年ＳＮＳにより認知された場所まで様々であり、これからも新たな発見が見込まれる。ここでは、現在までに評価された観賞の場を、松島の見方ごとに紹介する。



1）大高森
2）富山
3）扇谷
4）多門山
5）千代ヶ崎展望台
6）白崎山展望台
7）二度森展望台
8）西の山展望台
9）観月崎展望台
10）日和山
11）双観山
12）新富山
13）治祐ヶ森公園
14）西行戻しの松公園
15）君が岡公園
16）眺洋台
17）瑞鳳ヶ丘展望台
18）番が森展望台
19）稲ヶ崎公園
20）嵯峨見台
21）駒懸公園
22）鬼ヶ浜ほか
23）要の浜ほか
24）柳浜ほか
25）前浜
26）韮浜
27）桂島・石浜漁港
28）福浦島公園
29）観瀾亭
30）雄島
31）浪打浜公園ほか
32）扇浜
33）波多崎
34）湊浜緑地海岸
35）御殿崎
36）菖蒲田海水浴場
37）馬の背
38）浜田漁港ほか
39）新浜岬
40）大浜
41）里浜
42）室浜
43）乙女が浜
44）松島湾の遊覧船
45）嵯峨渓遊覧船
46）塩竈市営汽船
47）JR仙石線
48）国道45号
49）県道27号
50）県道58号
51）県道144号
52）宮城オルレ（奥松島コース）
53）みちのく潮風トレイル

第３－３図　観賞の場の位置

１　遠景として松島を眺める観賞の場

松島を遠景として眺める観賞は、最も松島らしい眺めを味わうことができ、古くから “ 松島の風景 ” イメージの形成に寄与してきた。遠景としての眺めはある程度の高所を必要とするため、松島を取り巻く丘陵が観賞の場として優れている。このうち、江戸時代後期に仙台藩儒学者・舟山萬年によって「塩松環海四山」とされた湾内四方の地点が「四大観」と総称され、歴史的に最 も高く評価されている。また、近代以降に整備された場所でも、特徴的な景観を観賞できる。

（1）松島四大観

松島四大観とは、壮観（大高森）、麗観（富山（とみやま））、幽観（扇谷）、偉観（多聞山）の総称で、これらの観賞の場は眺望がよいだけでなく、寺院や堂宇があり、信仰の場ともなっている。

第３－２１表　松島四大観

1	大高森 (壮観)	東松島市	宮戸島中央部の独立峰・標高 105.6 mに位置する観賞の場。山頂部から 360 度の展望が広がり、外洋部の野蒜海岸から湾内多島海まで一望できる。『塩松勝譜』によると、古来阿弥陀如来を祀り、薬師如来を祀る瑠璃山、観音菩薩を祀る観音嶺とともに宮戸三嶺の一つとして信仰されていたとされる。 景観工学的に人間が見やすい俯角は 10 度と言われているが（**註１**）、これを大高森の眺めに当てはめると、左から突き出した岬が印象的だが、これは立って前を見たとき視線が落ちる角度と言われる俯角 10 度が岬手前の海水面だからであろう。眼下に見えている海水面が俯角１７度、対岸の松島町の海岸はほぼ０度だから、俯角０～ 17 度という広範囲の海水面が見えている。ツク島などの島々は 12 ～ 4 度のなかに含まれ、岬も島々も樹木の綾が判別できる中景域ある。俯角 10 度内外に、距離もそれほど離れていない中景域の多島海が広がることから、鑑賞者の心に迫る景観となっている。壮観と呼ばれるにふさわしい。
2	富山（とみやま）(麗観)	松島町	町の北部丘陵の峰・標高 116.8 mに位置する観賞の場。山頂部に大仰寺がある。眺めは江戸時代から『奥州名所図絵』などに「松島の景悉く富山に在り」と記され、『塩松勝譜』では「（景）勝に富む」ことから富山の名がついたとされるなど、松島を代表する観賞の場として知られてきた。 富山から海までは 1.5 ｋm以上離れており、他の四大観と大きく異なる。この富山の特徴は水平の広がりにあり、40 度近い角度で多島海が広がるが、これは人間が対象をはっきり捉えることができる視野の限界に近い。 多島海の景観は上下の視野の狭く小さな範囲に限られ、対象までの距離が遠く迫力には欠けるが、水平に大きく広がる景観は優美であり、麗観というに相応しい。
3	扇谷 (幽観)	松島町	町の西端、双観山の裏・標高 55.8 mに位置する観賞の場。谷を通した展望は『塩松勝譜』において「扇面の書」のようと 評される。山麓には瑞巌寺を中興した雲居が営んだ庵に由来し、瑞巌寺の僧鵬雲が創建した海無量寺があった。海水面は広く捉えられるが、多島海の景観として見たとき、間近にあるのは要島１つで、その他の島々は俯角１度に満たない遠方に並ぶ。眼前に迫る景観とは異なり、幽観という呼称が肯かれる。
4	多聞山 (偉観)	七ヶ浜町	代ヶ崎浜の海食崖直上・標高 55.6 mに位置する観賞の場。直下の島々を見下ろすことができる。毘沙門天（多聞天）が祀られている。 自然に視線が落ちる俯角 10 度が地蔵島の手前にあり、海水面は広く、島々も数は多くないが間近にあって、迫力ある景観である。遠くに広がるのは富山や野蒜の丘陵で、俯角 0.4 度、ほとんど山紫の状態にある。偉観という呼称に納得がいく。

註１　俯角とは、視点と対象との上下関係を表す言葉で、対象を見下ろす場合の視線の水平に対する角度のこと。俯角 10 度は Henry Dreyfuss: The Measure of men; Human Factors in Design, Whitney Publications, NewYork 1959、樋口忠彦 1975「景観の構造」による。

第３－４図　松島四大観

（２）松島四大観以外

松島では四大観以外にも丘陵や岬を中心に観賞の場がつくられてきた。ここでは遠景として松島を観賞できる 16 ヶ所を紹介する。

第３－２２表　松島四大観以外の観賞の場

5	千代崎展望台	塩竈市	浦戸野々島	野々島の南西端。石浜を一望できる。
6	白崎山展望台		浦戸桂島	桂島北西端。松島から塩釜まで望むことができる。
7	二度森展望台		浦戸桂島神手洗	桂島北西部。塩釜湾を望むことができる。
8	西の山展望台		浦戸桂島	桂島南西部。大藻根島をはじめ、島々を近くに見ることができる。
9	観月崎展望台		浦戸桂島菖蒲	桂島南西端。仁王島を間近に見る。
１０	日和山		浦戸寒風沢	寒風沢水道に面している。江戸時代にはここから天候などを見ていた。
１１	双観山	松島町	松島字大沢平	松島海岸南端に位置する岬。松島湾と塩釜湾の双方が眺望できる。
１２	新富山		松島字愛宕裏	松島海岸の市街地の背後丘陵に位置する。市街地越しに湾内を一望できる。
１３	治祐ヶ森公園		桜渡戸字芦ケ沢（指定地外）	標高 122m の白坂山に位置する。個人から町に寄付された土地を、永久自然林として町が整備管理している。

１４	西行戻しの松公園	松島町	松島字犬田	西行ゆかりの伝説地であるとともに、松島湾を一望できる展望地として整備され、桜の名所としても有名。
１５	君ヶ岡公園	七ヶ浜町	吉田浜字西君ヶ岡	標高 59m の高台に位置する。七ヶ浜町内の集落越しに浦戸諸島が一望できる。明治 33 年 (1900) に皇太子 (大正天皇) 御成婚祝賀会が開催され、記念の桜が植樹された。
１６	眺洋台		吉田浜字寺山	昭和 62 年 (1987) に地元クラブの奉仕作業で整備された。外洋を望むことができる。
１７	瑞鳳ヶ丘展望台	利府町	赤沼字櫃ヶ沢	浜田澪の北岸に位置し、主に松島湾の西半部の島々を望む。周辺はマツのほか、モミの巨木も自生する。
１８	番ヶ森展望台		赤沼字番ヶ森 (指定地外)	標高 216m の番ヶ森山頂に位置する。東に金華山、北に栗駒山、西に松島湾が望める。
１９	稲ヶ崎公園	東松島市	宮戸字月浜	月浜の西端の岬。標高 37.8m。松島湾を一望し、遠くに蔵王連峰を望むことができる。新宮戸八景のひとつ。
２０	嵯峨見台		宮戸字室浜	観音山遊歩道の途中。近くに黒島、花渕島を、遠くに石巻、牡鹿半島を望むことができる。新宮戸八景のひとつ。

２　松島の自然や地域社会に入り込む観賞の場

浜や入り江など、松島の自然や地域社会の中に入り込む観賞は、松島の特徴や奥深さを理解できる。こうした体験ができる観賞の場を 23 箇所紹介する。

第３－２３表　松島の自然や地域社会に入り込む観賞の場

２１	駒懸公園	塩竈市	浦戸桂島鬼ケ浜	桂島の南側、桂島海水浴場と鬼が浜の間の岬にある。太平洋を望む。
２２	鬼ヶ浜・小沙羅浜		浦戸桂島鬼ケ浜 浦戸石浜本石浜	桂島の太平洋を望む浜である。特に鬼ヶ浜の近くには首浜、頭浜があり、それぞれ鬼退治の民話に因んだ地名が残る。宮城県で 2 番目の海水浴場であった。
２３	要の浜・元屋敷浜		浦戸寒風沢	要の浜は民話伝承古下駄のお化けの地として伝わる浜である。隣の元屋敷浜はかつて集落があったと伝わる青島等を望む。
２４	柳浜・宇内浜		浦戸野々島毛無崎・吹越、馬越	ともに野々島にある。宇内浜は干潮時に島と地続きになる。
２５	前浜		浦戸寒風沢	寒風沢島の最も広い浜で、船入島、鷹島、沖鷹島、岩井島等を望む。
２６	韮浜		浦戸寒風沢	荒崎の隣にある浜。遠くにカラカイ島を望む。
２７	桂島漁港		浦戸桂島庵寺、浦戸石浜	松島湾を望む漁港であり、市営汽船の船着き場でもある。秋はハゼ釣りで賑わう。
２８	福浦島公園	松島町	福浦島	東西 300m、南北 200m の島。福浦橋 (長さ 250m) で本土と結ばれる。島内を一周する遊歩道からは、松島湾を様々な方向から眺望できる。
２９	観瀾亭		松島字町内	伏見城遺構と伝わり仙台藩主の御仮屋として建てられた。松島湾や松島海岸の瑞巌寺門前町を見られる。
３０	雄島		松島字浪打浜	中世に多くの板碑が建てられた。雄島からみえる景色が浄土の入口と見立てられた。
３１	松島グリーン広場・松島海浜公園・浪打浜公園		松島字霞ヶ浦	福浦島、雄島をはじめとした島々を望む。県事業により公園として整備されている。松島湾島めぐり観光船の乗り場でもある。
３２	扇浜		松島字大沢平	扇谷の麓にある。松島湾要島、兜島、鎧島、在域島等を望む。
３３	波多崎	七ヶ浜町	吉田浜字沢尻	前塚浜の北端。外洋を望むことができる。
３４	湊浜緑地海岸		湊浜字砂場	仙台港の新設まで、湊浜を起点とする長浜海岸は、仙台市荒浜までつながる砂浜であった。港の新設によって寸断されたが、隣接する御殿崎に代表され美しいマツ林と砂浜の景観が残る。
３５	御殿崎		松ヶ浜字浜屋敷	かつて仙台藩主の仮小屋がおかれ、仙台湾と外洋が鑑賞された。
３６	菖蒲田海水浴場		菖蒲田浜字長砂	外洋と外国人別荘地のある丘陵を望む。

３７	馬の背	利府町	赤沼字櫃ケ沢	浸食によって天然の桟橋となった地形を中心に松島湾が一望できる。対岸には一回り小さい「子馬」がある。
３８	須賀漁港・浜田漁港		赤沼字須賀、浜田	表松島と呼ばれ、天然の桟橋「馬の背」や、鎧島・兜島など表松島の島々のほか、湾内の伝統漁の景観も見ることができる。
３９	新浜岬	東松島市	宮戸字月浜	月浜から大浜への遊歩道沿いに位置する。外洋を望むことができる。
４０	大浜		宮戸字大浜	宮戸島南東の浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
４１	里浜		宮戸字牛山崎	宮戸島里浦を望む浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
４２	室浜		宮戸字鹿嶌	宮戸島東側の浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
４３	乙女ヶ浜		宮戸字推山	嵯峨渓遊歩道の終点。萱野崎を望むことができる。

第３－５図　遠景として松島を眺める鑑賞の場（１）